



1. ちょっぴり緊張した面持ちでサインを待つ / 2. 子どもたちに優しく話しかけるいわむらさん / 3. サインの順番を待つ間「14 ひきのねずみ」のパズルに熱中 / 4. 「おいしそう〜！」展示室内の絵本コーナーで笑みがこぼれる

「大人も子どもも」

11月6日㊥、伊達市梁川美術館で絵本作家のいわむらかずおさんのサイン会が開かれ、60人が参加しました。繊細な絵とストーリーに惹き込まれ、大人になってから大ファンになったという参加者の女性は、笑顔で本を抱え「会えて感無量です。」と話していました。パズルや顔出しパネルなど、展示以外にも楽しい仕掛けがたくさんあり、大人も子どもも楽しむ姿が見られました。「いわむらかずお原画展」は12月12日㊥まで開かれています。

市長コラム

第39回 伊達市の発展に不可欠な“国道349号”



去る11月16日、「安全・安心の道づくりを求める全国大会」が東京で開催されました。全国から1,000人を超える市町村長等が集まり“災害に強い道路ネットワーク”について意見交換と決議を行い、その日のうちに、政府や国会議員等に要望書を提出しました。私は、福島県の市町村長を代表して県選出国会議員に道路予算の確保と道路ネットワークの強化について要望を行ってきました。

さて、“災害に強い道路ネットワーク”とは何かというと、大雨や地震時でも道路そのものが強固で壊れない、通行止めにならないということに加え、もし被災して通行ができなくなった場合でも、迂回ルートがしっかり確保されている道路であるということです。

伊達市は阿武隈川の県内最下流に位置し、大雨時には内水氾濫や河川の増水により道路が冠水し通行できなくなることが多くあります。特に国道349号の梁川町五十沢地内から宮城県丸森町に至る県境部は、阿武隈川の増水によりたびたび道路が冠水し通行止めとなってしまう、緊急車両の通行や住民の避難

ルートの確保も難しいのが現状です。早急にこの状況を解消しなければなりません。

そして、この道路は東北自動車道や国道4号、相馬福島道路が事故や大雪などで通行止めとなった場合の代替路線であり、福島県から宮城県間における緊急搬送や災害物資輸送道路としてもとても重要です。

さらには、伊達市から丸森町、角田市を經由して仙台市に至る最短ルートであるばかりか、角田市から宮城県山元町に抜け常磐自動車道に乗れば、仙台空港や仙台港に短時間で接続することができ、伊達市の地域経済や交流促進に大きな効果をもたらします。

現在、国道349号の宮城県側では、国の直轄事業により山側へのバイパス工事が令和6年度完成を目指し始まっています。福島県側も宮城県側に遅れることなく完成しなければ、これらの効果が十分に発揮されません。国、県に早期着工を強く働きかけてまいりますので、市民の皆さまのご協力をお願いします。

須田博行